



主郭南斜面の調査区（M区）では、調査のための掘削作業はほぼ終了しました。調査の最終段階として、1月に入ってからではレーザー計器を用いた詳細な測量を実施しているところです。この測量は、発掘調査の掘りあがりの状況、つまり450年前の小牧山城の姿を正確にデータとして記録し、今後の調査研究や史跡整備に役立てるために実施しているものです。



掘りあがったM区

レーザー測量実施中

小牧山城

はつら版

第13号

20130121



毎年の調査ごとにこうしたデータを蓄積していくことで、一度に全ての斜面を掘り返さなくても図面上で石垣の範囲を確認することができたり、将来CGなどで小牧山城の当時の様子を再現する必要が生じたときに利用できるなど、多くの利点があります。

発掘ひとくちメモ

～石垣の上には何がある？～

この種のお問い合わせも調査中によくいただく質問のひとつです。これまでの調査で、小牧山城の主郭（本丸）は巨石を用いた石垣によって囲まれることが確実となりました。石垣はそれだけでも立派な構造物ですが、城郭全体からいけば基礎や地盤強化の役割を担っている一つのパーツです。では石垣が囲む本丸には何があったのか、どんな建物があったのか…。残念ながら現在のところ建物の痕跡は確認できていません。また、調査では瓦が出土していないことから、建物があったとしても、瓦葺ではなかった可能性があります。